

川崎市議会議員 いわくま ちひろ 続く川崎市社会福祉事業団の不祥事

みらい
川崎市議会
連載No.106

6月定例議会では、川崎市社会福祉事業団（以下・事業団）の不祥事について調査をしています。昨年12月議会では、市から運営を任されている障害者施設において、職員が横領した事案を調査し修正させたところですが、今回はより悪質な事案が発覚しました。

4月に報道発表されましたが、事業団が指定管理者として業務を担っている児童施設において、虚偽の文書を用いて、市から給付金等を約7500万円不正に請求した事案です。公金・税金を不正に受領したことになります。

しかしながら、市は「不適切な職員の配置」、事業団は「届出に関する重大な誤認識」と曖昧な表現で発表しています。実態は、法的に配置が必要な児童発達支援管理責任者を配置していなかったばかりか、1年前に退職した職員の氏名や押印を第三者が無断で使用して虚偽の文書を作成し、それを元に市へ給付金等を不正に請求したという、私文書の偽造に係る可能性のある大変問題のある事案です。

と加算金を加えた金額がペナルティとして事業団に課せられました。刑事告訴は見送るとのことです。しかし、人事を含め組織を改革しなければ類似事案は続くことでしょう。

事業団は、そもそも昭和60年に市が設立した法人であり、特別養護老人ホームをはじめ、保育園、障害者施設などその運営は多岐に渡っており、昨年度だけでも約30億円の予算が市から支出されています。また、市の退職局長が天下りを繰り返しています。退職局長が理事長を務める事業団で不祥事が多発するようでは生え抜き幹部職員の人材育成などは適切にできていたのだろうかという疑念が残ります。

市から事業団へ多額の公金・税金が支出されています。透明性の確保と、利用者である市民にとってより良い運営法人となるよう改善を求めたいと思います。



川崎市議会議員 いわくま ちひろ

- 昭和50年生まれ 43歳
- 英国国立ウェールズ大学卒業 ロンドン大学大学院研究生 専門は国際政治学
- 国際派議員として、子どもから大人まで英語とキャリア教育を教える。毎週日曜日は、イトーヨーカドー溝口店前で市政報告を継続中！（11年8ヶ月）